

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空ツーリズム論			13836	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石井 由美子	選択	2	航空会社勤務			

授業の到達目標

アメリカから始まった空の規制緩和により我が国もオープンスカイを押し進め、2010年に羽田空港も国際化した。近年は長距離路線も拡充し一層便利になっている。また2012年から運航を開始した国内LCCも定着し、航空ツーリズムとして国内旅客だけではなく訪日観光客の利用も急増している。この授業ではグローバル化を進める3大アライアンスや国際ハブ空港の競争も注目しながら、観光立国を目指す我が国にとって航空業界の全体の動きと今後のツーリズムに果たす役割を理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

授業の概要

まず社会基盤としての航空事業の特性と日本と世界の航空業界の主要な歴史を解説し、ツーリズム産業での重要な役割を理解していく。次に航空ツーリズムのキーワードになる「オープンスカイ政策」についてアメリカの事例を考察しいかにして巨大航空会社が誕生し、それが世界の航空業界に波及していく状況をヨーロッパ、アジア、日本と順次考察する。その上で世界の3大グローバルアライアンスやLCC、国際ハブ空港の競争を含めた航空業界全体の動向を把握する。2020年は日本でオリンピックが開催され、世界から注目される我が国に於いて航空ツーリズムがどのように発展し訪日観光客4000万人達成を目標としているのかを考える。

授業計画

1. ガイダンス
2. 航空事業の特性
3. アメリカの規制緩和とオープンスカイ政策
4. ヨーロッパの規制緩和とEU
5. アジアの規制緩和とASEAN
6. 日本の規制緩和と新規航空会社
7. アメリカのLCC
8. 欧州とアジアのLCC
9. 日本のLCC
10. アジア・ゲートウェイ構想と羽田の国際化
11. 世界の国際ハブ空港の競争
12. グローバルアライアンス
13. JALとANA
14. 航空機の進化とツーリズム

15. 航空業界の地球環境対策・まとめ

授業の方法

講義を中心とするが学生への課題ではグループディスカッションを取り入れる。

準備学修

WEBで参照すること。

課題・評価方法

グループでのディスカッションと発表では教員によるフィードバックを行う。

評価は出席状況を含む平常点50%、定期試験50%

欠席について

特別の理由のない欠席は減点する。

テキスト

特に指定しない。適宜プリントや資料を配布する。授業内容によりDVDなどの映像でも紹介する。

参考図書

『航空産業入門 第2版』（2017）ANA総合研究所
『日本の空を問う』（2007）伊藤元重・下井直毅 日本経済新聞出版
『最新航空事業論・第2版』（2016）井上泰日子 日本評論社
『航空産業とライフライン』（2011）戸崎 肇 学分社

留意事項

世界の航空業界の動きや日本の観光立国に向けた航空政策、訪日観光客や観光業界に関するニュースなどは常に注目しておくこと。

教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務			

授業の到達目標

観光立国を目指し訪日客誘致は宿泊業に多大な影響を与えた。宿泊業はホテル、旅館の枠を超え民泊という新たなジャンルに発展している。本講座は特に旅館、ホテルの歴史や経営に関して学修する。グローバル時代における宿泊業の基礎を理解し、宿泊マネジメント基礎的知識やグローバル化する宿泊業の収益構造や組織運営を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を養う。

授業の概要

宿の歴史から始まる本講座は、日本の宿泊と欧米におけるホテル業の歴史を学ぶ。次に、産業としてのホテル業を学び、特に現代ホテル産業の組織及び経営方式などを理解する。理解を助ける補助教材として日本ホテル協会監修の研修DVDを参考に理解を深める。宿泊業の基礎講座である。

授業計画

1. ガイダンス
2. ホテル産業史Ⅰ
3. ホテル産業史Ⅱ
4. ホテル産業史Ⅲ
5. 宿泊業の市場特性
6. ホテルの組織と役割
7. 宿泊事業1
8. 宿泊事業2
9. 宿泊事業3
10. 料飲事業
11. バンケット事業
12. プライダル事業
13. ケータリング事業
14. 購買とFBCC
15. まとめ

授業の方法

テキストとパワーポイントを使い講義をする。受講生はノートを取ること。また、ディスカッション等のグループワークも取り入れる。

準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。事前にテキストを一読すること。

課題・評価方法

課題30%、総括試験70%

欠席について

大学の規定通りとする。

テキスト

鈴木博、大庭祺一郎（2007）『基本ホテル経営教本』柴田書店

参考図書

適宜紹介
オータパブリケーション『ホテルレストラン』
柴田書店『ホテル旅館』

留意事項

観光における中心的な産業は、宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠である。合わせて、観光マーケティング論を履修すること。

教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。